

第6期中期経営計画 (2026年度 - 2030年度)

2026年7月31日付で、本資料の一部を訂正しております。

本日お話しする内容

① 第5期中期経営計画の振り返り

② 第6期中期経営計画



2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ 研究開発費控除前コア営業利益*率：40%

- ◆ ROE：16%以上
- ◆ DOE**：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

第5期中計の振り返り：3ADC最大化の実現

- ◆ エンハーツ®とダトロウェイ®が牽引し、**がん事業が飛躍的成長**
- ◆ アストラゼネカに加え**米国メルク**とも**戦略的提携**を締結

製品	エンハーツ®	● HER2陽性乳がんの標準治療を変革し、HER2低発現・超低発現乳がんを新たな治療領域として確立 ● 従来抗HER2療法を選択肢がなかった乳がん・胃がん以外の患者へ、新たな治療選択肢を提供 ● 販売面を中心に強靱な自社組織を構築
	ダトロウェイ®	● 治療選択肢の限られていたHR陽性HER2陰性乳がんやEGFR変異NSCLCへ新たな治療選択肢を提供 ● TROPION-Lung01から得られた知見に基づく新規バイオマーカーの導入により、NSCLC 1LおよびEGFR変異NSCLCの開発戦略をアップデート
	HER3-DXd、I-DXd、R-DXd	● 製品価値最大化に向け、米国メルク*と戦略的提携を締結 ● HER3-DXdにおいて、HERTHENA-Lung02結果を踏まえ肺がんの米国申請取り下げを決定、他がん種での可能性を探索中 ● I-DXd、R-DXdにおいて、ポジティブデータを獲得し、米国で画期的治療薬指定を取得、開発計画を拡大
その他	製造・供給	● グローバルで大幅に成長したエンハーツ®の安定供給 ● グローバルでの自社生産拠点拡充 ● 供給計画を見直し、グローバルサプライチェーンを最適化
	特許係争	● Seagen Inc.との特許係争が終結し、DXd ADCが第一三共独自の技術であることが確定

*Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA

1L: first line, ADC: 抗体薬物複合体, HR: ホルモン受容体, NSCLC: 非小細胞肺癌

第5期中計の振り返り：各戦略及び事業基盤

既存事業・ 製品の利益成長

- リクシアナ®・タリージェ®・Nilemdo®等のスペシャリティ製品の売上収益、製品利益の拡大
- Injectafer®の競争環境激化、Venofer®の後発品参入により、製品利益の減少
- 第一三共エスファ・第一三共ヘルスケア株式譲渡等による、新薬を軸とした事業構造へのトランスフォーメーションの進展

更なる成長の柱の 見極めと構築

- ポートフォリオ優先順位の見直しによりDS-9606の自社開発は中止する一方、mPBD ADC技術のバリデーションは達成
- 新規STINGアゴニストADC（DS-3610）等の新たなプラットフォーム技術候補を創出
- 欧米で研究拠点を新設し、グローバルな研究体制を強化

ステークホルダーとの 価値共創

- 利益成長に応じて毎年増配を実施
（年間配当を27円（21年度実績）から78円（25年度予想）へ増配）
- 機動的な自己株式取得を実施（2024年度：2,500億円、2025年度：918億円）
- 国産初のCOVID-19 mRNAワクチン ダイクロナ®の供給

4つの戦略の柱を支える 事業基盤

- データ駆動型経営の実現に向けた基幹システム（ERP）基盤の構築を推進
- RPA等を活用した業務プロセスの可視化・自動化を推進

第5期中計の振り返り：計数目標

7月31日更新



第5期中計 策定時

売上収益	1兆6,000億円
がん領域売上収益	6,000億円以上
R&D費控除前 コア営業利益率	40%
ROE	16%以上
DOE	8%以上

2025年度

2兆1,230億円
9,540億円
40.1%
16.9%
8.7%

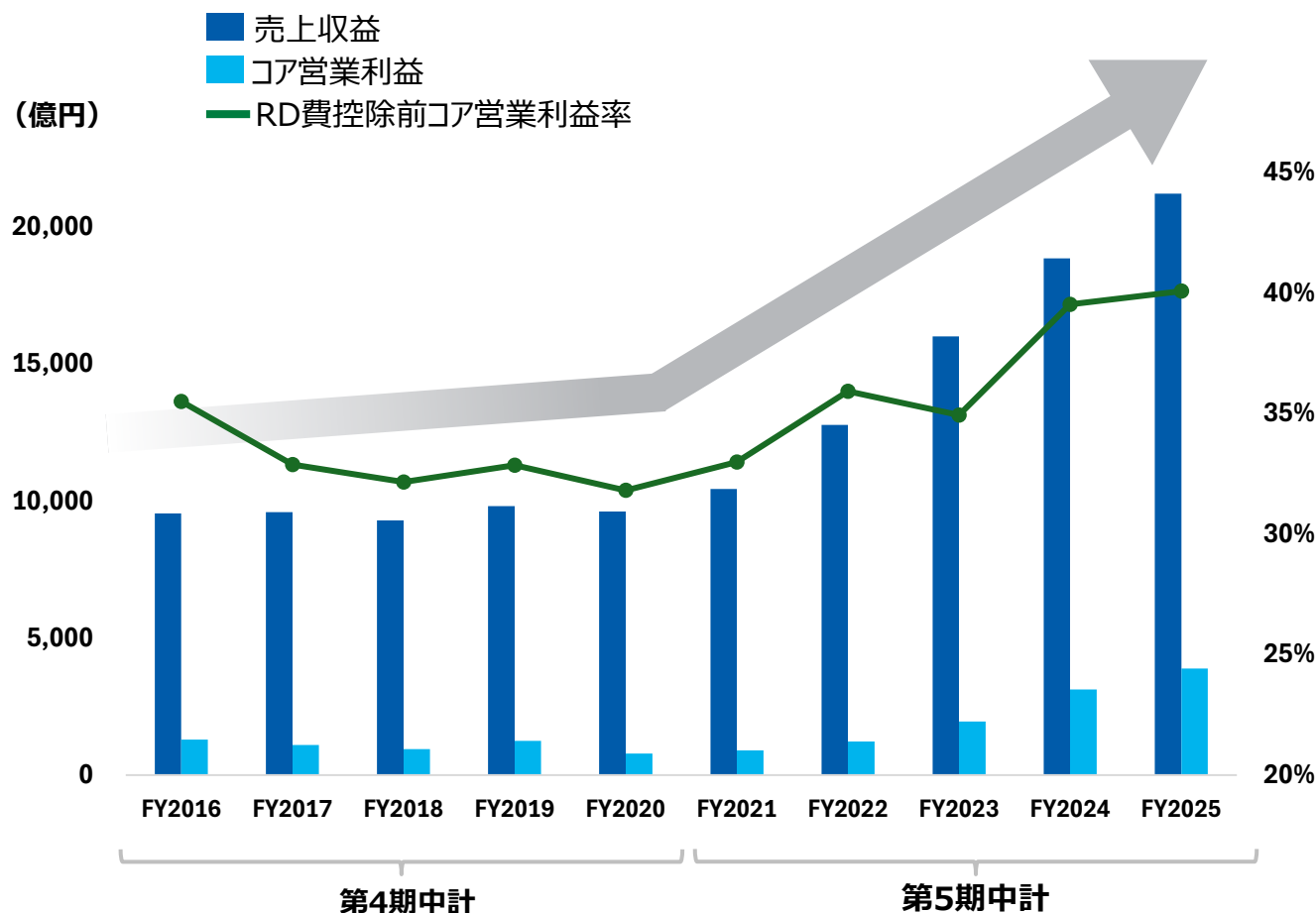
為替換算レート的前提

1USD=105円、1EUR=120円

1USD=150.78円、1EUR=174.79円

2021-2025年度 第5期中計

「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」を実現



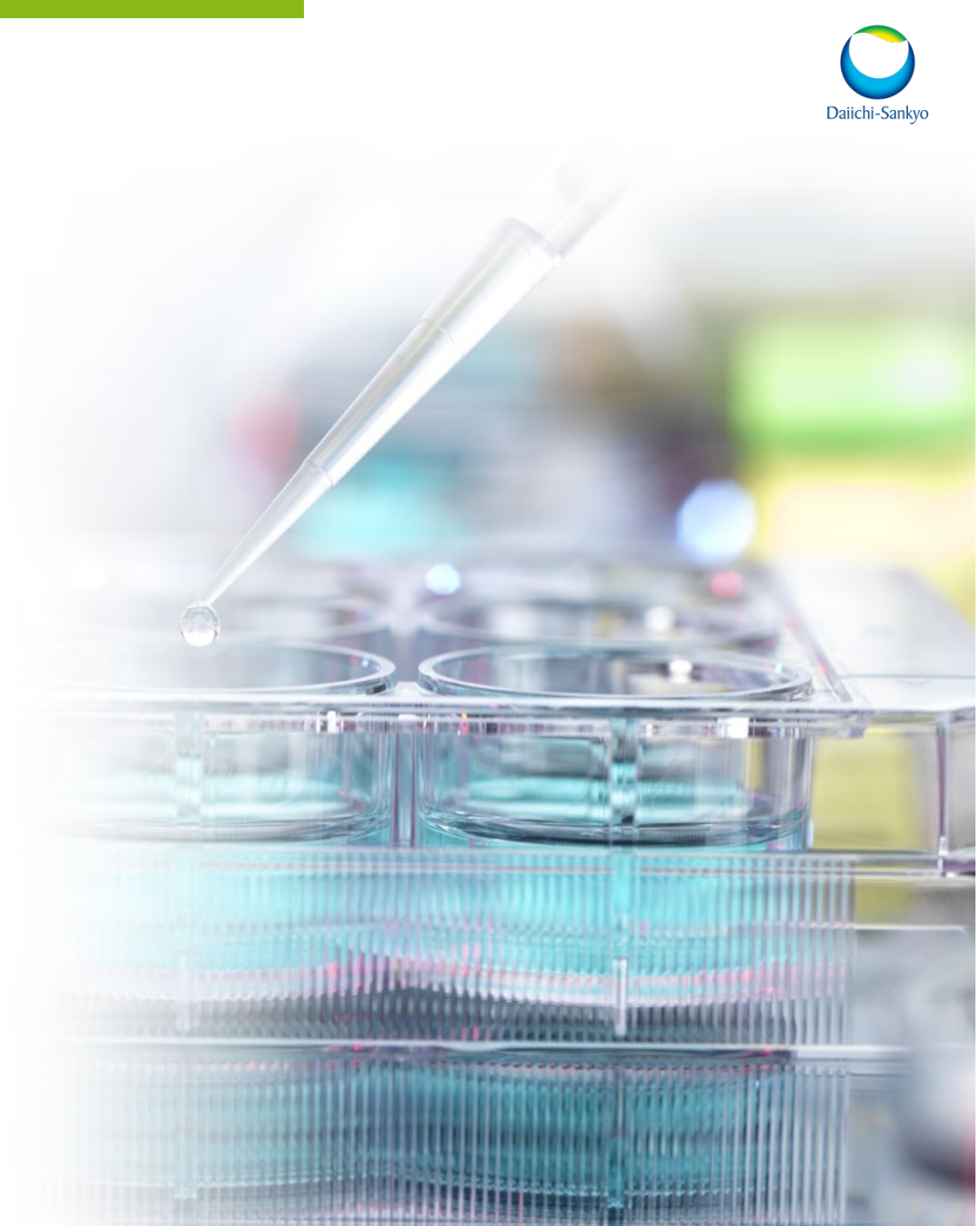
第5期中計の振り返り

- エンハーツ®とダトロウェイ®が牽引し、がん事業が飛躍的成長
- ADC供給能力を拡大したが、供給計画を見直し、グローバルサプライチェーンを最適化
- リクシアナ®等の既存製品による利益拡大
- 新たなプラットフォーム技術候補を複数創出
- 株主還元として利益成長に応じて毎年増配を実施

本日お話しする内容

① 第5期中期経営計画の振り返り

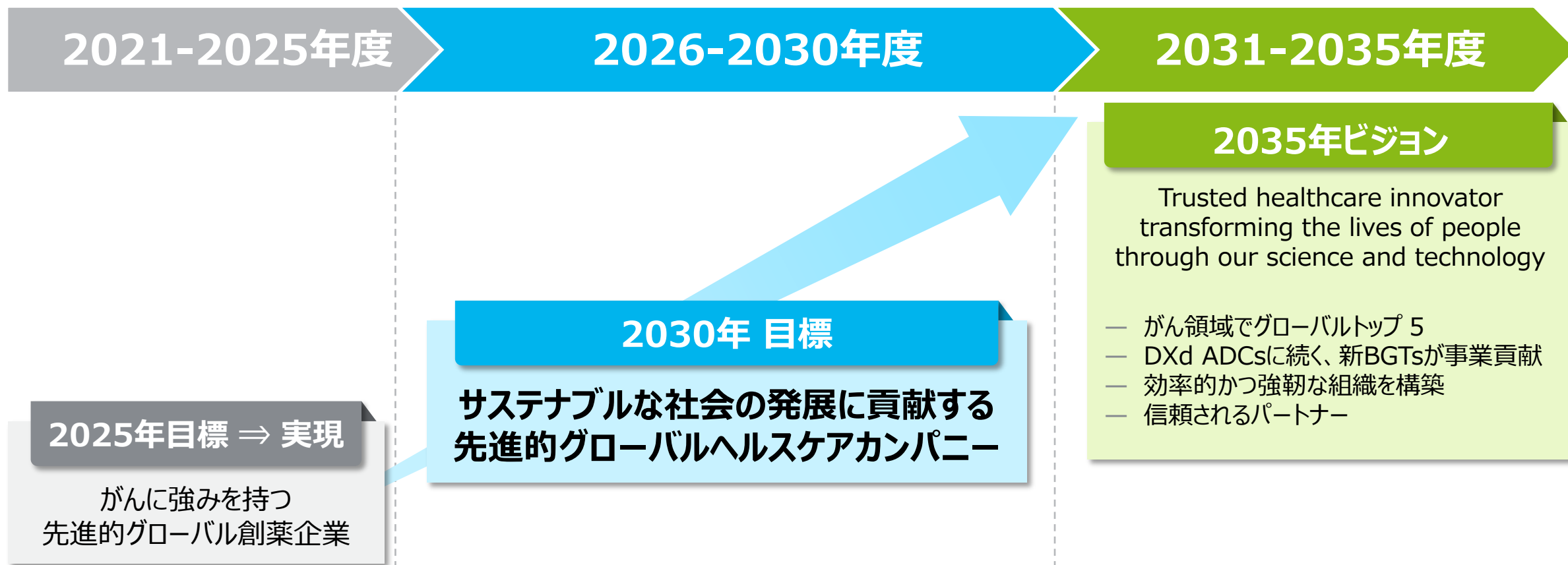
② 第6期中期経営計画



2035年ビジョン

**Trusted healthcare innovator
transforming the lives of people
through our science and technology**

第6期中期経営計画の位置付け



第6期中計期間は、効率的かつ強靱な組織を構築することで、がん事業を拡大するとともに、持続的成長に向けた新たなBGTsを特定し、信頼されるヘルスケア・イノベーターの実現に向けたステージ

2030年 目標

サステナブルな社会の発展に貢献する 先進的グローバルヘルスケアカンパニー

2030年度計数目標

売上収益 3兆円以上

営業利益 6,000億円以上

EPS 260円以上

Be a Global Top 5 Oncology Company by 2035

- 複数製品/適応症におけるLaunch Excellenceの強化
- パイプライン進捗に応じた自社単独ケイパビリティの確立

Identify next BGTs by 2030

- BGT候補の継続的な創出
- BGTsを早期同定し、開発加速化

Operational excellence

Be a trusted partner for sustainable society

Global Top 5 Oncology Companyとして当社の目指す姿

- ◆ 世界中の重篤な疾患を持つ患者さんに、がん治療を「治癒」へと一歩近づけられる革新的な治療を提供する
- ◆ 個別化医療により、従来では十分に治療効果が得られなかった患者さんに新たな治療オプションを提供する
- ◆ 医療従事者への付加価値の高い情報提供を通して、年間70万人以上の対象患者さんに医薬品を届ける

過去5年間で当社のがん事業は大きく成長

- ◆ 戦略的提携を通して当社のがん事業は大きく成長し、**累計24万人以上**の患者さんに貢献
- ◆ 製品・適応症の上市や保険償還による事業拡大だけでなく、リアルワールドデータ等エビデンスを創出し、製品価値最大化に向け**積極的に投資**

With 10+ indications approved in oncology

95+

Countries / Regions
ENHERTU® Approved

270+

Reimbursement Achieved*
to ensure patient access to the
medicine; expected **80+** in FY26

240 K+

Patients
have been treated with ENHERTU®
and DATROWAY® since launch

11

Breakthrough Designation
Granted
in the past five years

400+

HEOR & RWE Studies
includes 100+ TLR
Reported**

100+

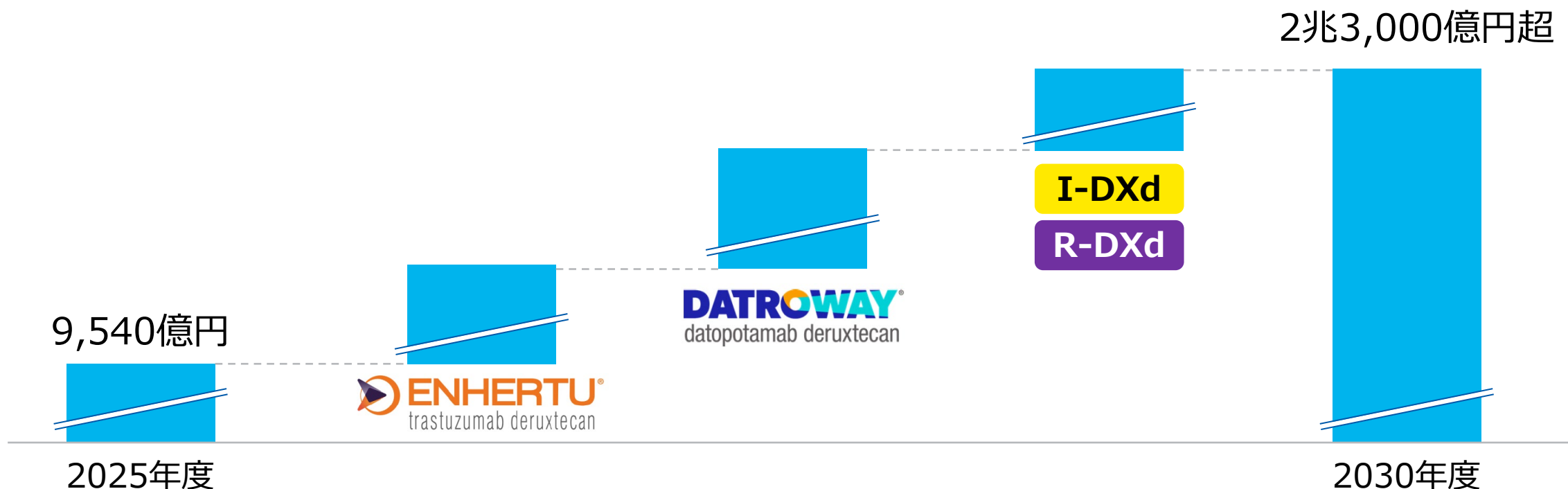
Journal Manuscripts
Published in FY25
and expected **140+** in FY26

*Counting ENHERTU®, DATROWAY®, VANFLYTA®, EZHARMIA®; accumulated number of reimbursement by indication in country level as of FY25 year end including both private and public

** Including 300+ ongoing studies leading by global, region, and local teams

成長戦略のもと、2030年の目指す姿

- ◆ 主にエンハーツ®やダトロウェイ®の売上が大きく成長し、がん領域売上収益2兆3,000億円超を目指す
- ◆ 競争力のあるパイプラインを有し、それらの製品価値を最大化できる自社ケイパビリティを構築し、持続的な成長を実現



The graph is for illustrative purposes only

Global Top 5 Oncology Companyに向けたケイパビリティ構築

- ◆ アストラゼネカや米国メルクとの提携により培ったがん事業のノウハウを活かし、将来の利益創出力を高めるべく、当社のScience & Technologyに裏付けされた有数のパイプラインを**自社開発・商業化**できる体制を構築・強化



R&D Excellence

パイプライン進捗に応じた自社単独ケイパビリティの確立

- 臨床開発プロセスの最適化により開発スピードの向上
- デジタルパソロジー等のテクノロジーを活用したプレジジョンメディシンにより、臨床試験の成功確率の向上
- AI／デジタルテクノロジー等の活用によりRDの効率化を推進



Business Excellence

複数製品／適応症におけるlaunch excellenceの強化

- 複数製品および20以上の適応症を遅延なく上市
- 継続的なエビデンス創出を通じて、付加価値の高い情報を提供
- 価格や償還戦略等を通じ、長期的な製品価値を確保
- 乳がん領域でのリーダーシップを維持・拡大し、肺がん領域で強固なリーダーシップを構築

グローバルサプライチェーンの最適化

安定供給

開発品の迅速な立ち上げ

リスク低減

開発スピードの向上

◆ グローバル企業基準の開発スピードを実現

- エンハーツ®にて4年3ヵ月でFSDから最初の承認を取得し、**世界で過去最速レベル**の承認スピードを達成
- 非臨床から臨床の**FSDまでの期間を短縮**することや、**臨床開発の各プロセスを効率化**することで、自社開発品において**競争力のある承認スピード**を目指す



治験ネットワークの構築

◆ 10以上の国・地域で20以上の治験経験が豊富な施設*と提携し、グローバルでPh1実施のネットワークを構築

- 提携施設は今後さらに積極的に拡大し、FIH試験を加速
- Ph1参加施設を通して薬剤使用や副作用管理の経験を世界中の後期試験参加施設に共有することで、患者さんの登録加速化や試験のクオリティ向上を目指す



デジタルテクノロジーやAIの活用

◆ 研究開発の様々なプロセスで、デジタルテクノロジーやAIの活用により効率性を向上させ、臨床開発プロセス全体のスピードアップにつなげる

- バイオマーカーの探索や研究
- 臨床試験やリアルワールドデータ等、蓄積された膨大なデータの分析や活用
- 試験設計からプロトコル作成、被験者登録、施設選定等、プロセスを一気通貫で効率化

今後5年間で20以上の標的適応症の迅速な上市を実現

- ◆ すべての標的適応症を全世界で**迅速な上市**および**市場浸透を実現**させ、**医薬品アクセスの向上**を目指す
- ◆ 製品価値最大化できる価格・償還戦略や、継続的なデータやエビデンス創出により、**長期的な製品価値を確保**

2026年度	2027年度	2028年度+
Regulatory Milestones - DESTINY-Breast05 - DESTINY-Breast11* - TROPION-Breast02 - IDEATE-Lung01	Expected Data Readouts - TROPION-Breast03 - TROPION-Breast05 - TROPION-Lung08 - IDEATE-Lung02 - REJOICE-Ovarian01	Expected Data Readouts - DESTINY-BTC01 - DESTINY-Endometrial01 - DESTINY-Gastric05 - DESTINY-Lung06 - DESTINY-Ovarian01 - TROPION-Breast04 - TROPION-Lung10 - TROPION-Lung14 - TROPION-Lung17 - TROPION-Urothelial03 - IDEATE-Esophageal01 - IDEATE-Prostate01 - QUANTUM-Wild ... and more studies to be announced
Expected Data Readouts - DESTINY-Lung04 - AVANZAR - TROPION-Lung07 - TROPION-Lung15		

Disclaimer:

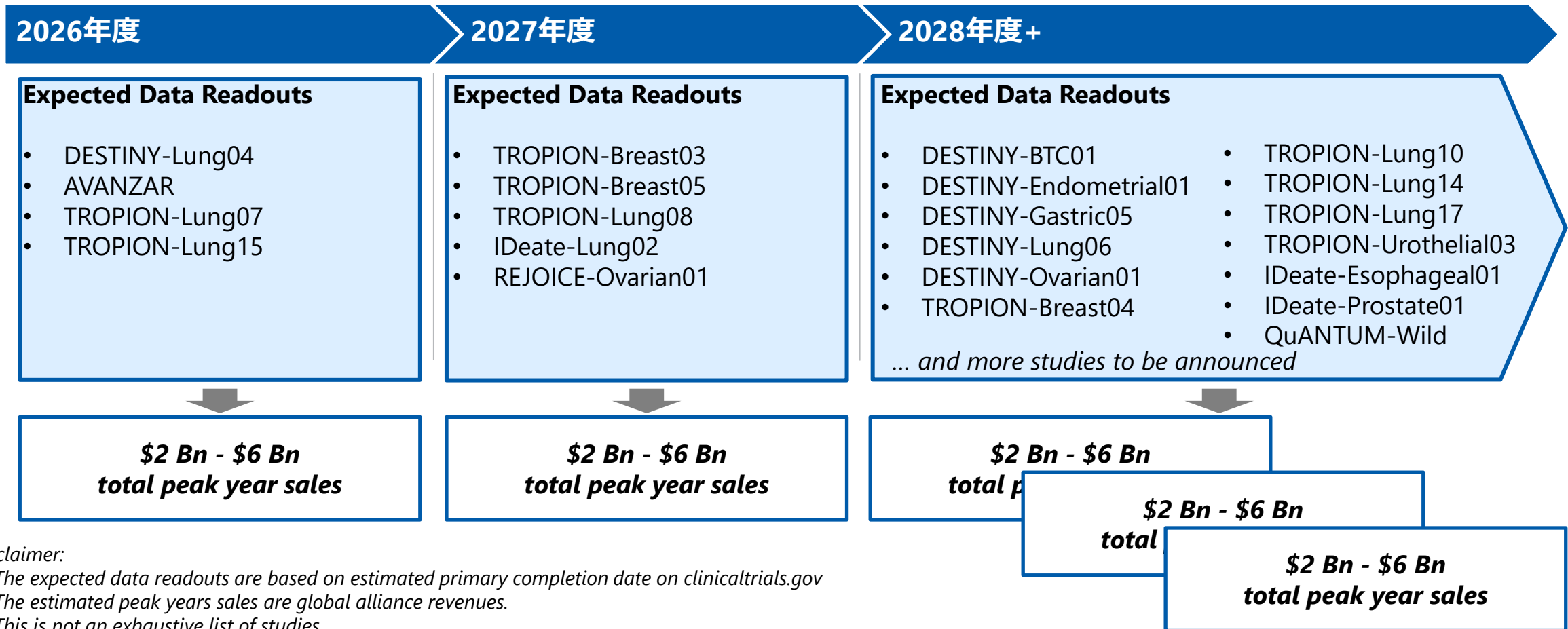
- The expected data readouts are based on estimated primary completion date on clinicaltrials.gov
- This is not an exhaustive list of studies.

*中国にて承認取得済み（2026年3月）

AGA:アキシオナル遺伝子変異, AML:急性骨髄性白血病, BTC:胆道がん, CRPC:去勢抵抗性前立腺がん, ESCC:食道扁平上皮がん, NSCLC:非小細胞肺がん, PROC:プラチナ抵抗性卵巣がん, PSOC:プラチナ感受性卵巣がん, SCLC:小細胞肺がん, TNBC:トリプルネガティブ乳がん

今後5年間で20以上の標的適応症の迅速な上市を実現

- ◆ 中計期間を通して、「ピークセールスの合計が\$2 Bn~\$6 Bnに達する」臨床試験群のデータが毎年リードアウトされる



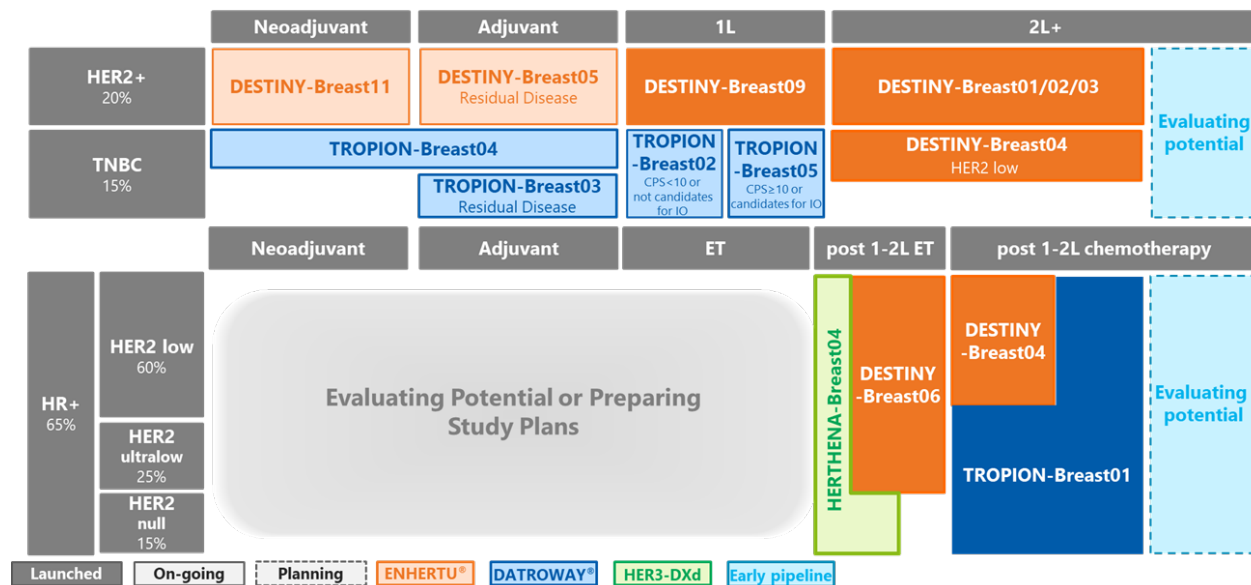
Disclaimer:

- The expected data readouts are based on estimated primary completion date on clinicaltrials.gov
- The estimated peak years sales are global alliance revenues.
- This is not an exhaustive list of studies.

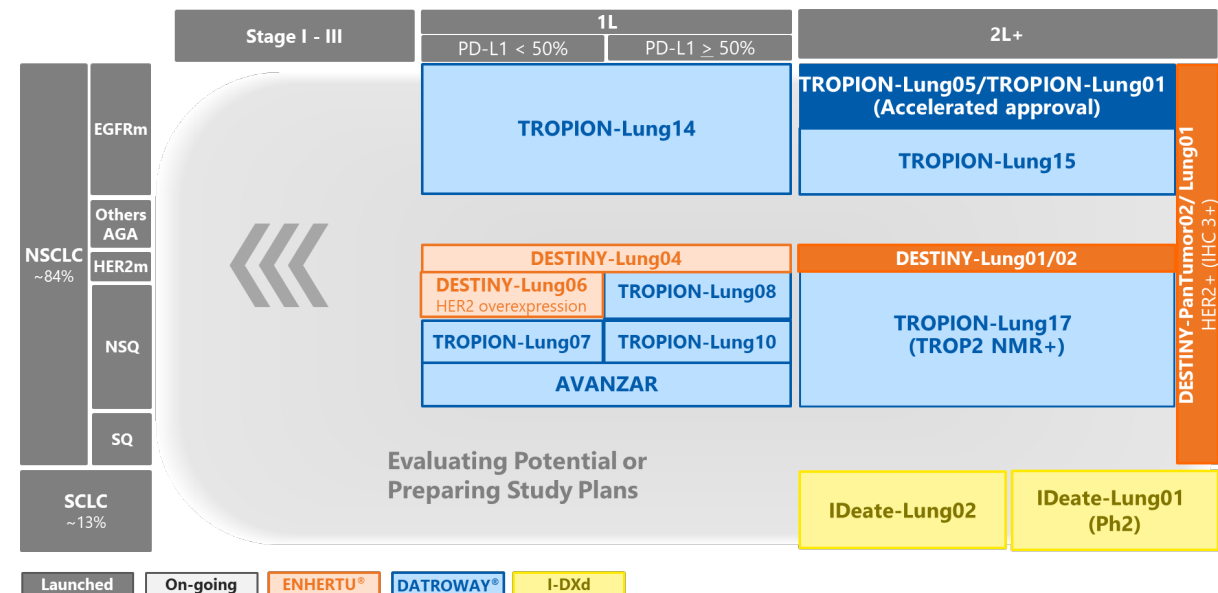
乳がんや肺がん領域におけるリーダーシップ

- ◆ エンハーツ®やダトロウェイ®のLCMを通して、乳がん領域でのリーダーシップを維持・拡大
- ◆ バイオマーカーの研究開発に取り組み、肺がん領域でリーダーシップを構築

乳がん領域の主な試験



肺がん領域の主な試験



- 主なピボタル試験のみ記載（網羅的でない）
- 枠の大きさは患者数を反映していない
- 枠の範囲は現在の潜在的なターゲットセグメントを示す

Be a Global Top 5 Oncology Company by 2035

- ◆ 適応症拡大含むLCMにより製品価値最大化を図り、DXd ADCは**3兆円以上**のピークセールスポテンシャルを有することに加え、後続のDXd ADC製品も**ブロックバスターポテンシャル**を有する
- ◆ 2035年には**グローバルトップ5**オンコロジー企業を目指し、年間70万人以上の対象患者さんに医薬品を届ける

DXd ADC

3兆円以上のピークセールスポテンシャル



I-DXd

R-DXd

HER3-DXd

Blockbuster Potential

DS-3939

DS3790

Next BGT

DXd ADC並みの
ポテンシャル

Forex Assumption: 1 USD = 150 JPY

BGTとは？

Breakthrough Generating Technology

BGT:

より革新的な医薬品を患者さんに迅速に届けるための第一三共独自の創薬技術

BGTプラットフォーム：

「第一三共独自の創薬技術」×「複数疾患に対する研究開発」

- 中核技術に基づいて複数の新薬を創出し、標準治療を変革する
- 臨床的に実証された技術を次のプログラムに応用し、より確度高く新薬を創出する
- 研究・開発・製造の各部門の知見を統合することで、革新的な医薬品をより迅速かつ効率的に患者さんに届ける

コンセプトイメージ（例 DXd ADC）



ADC創薬のパラダイムシフトをめざすBGT候補



DXd ADC耐性を克服する 新規の細胞傷害性ペイロード

- TopoI阻害剤のトッピノバーターが持つ臨床情報を次世代ペイロード探索に活用
- 長年培ってきたオンコロジー研究の成果を新規ペイロード研究に発展
- **2027年度 Ph1試験開始予定**



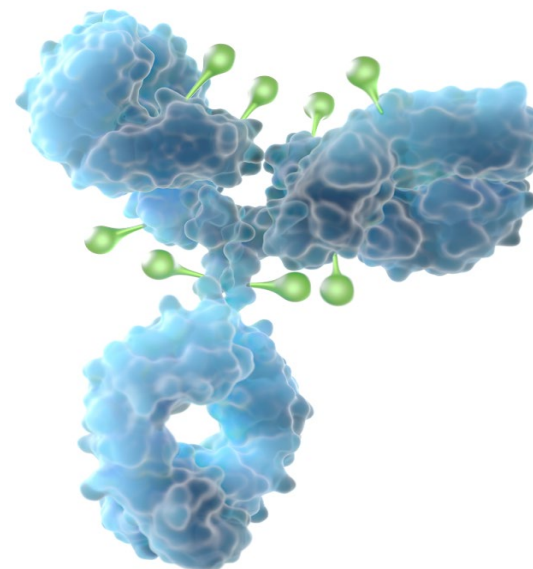
長期の寛解を目指す 免疫療法（IO）ペイロード

- STING経路を介して免疫系を活性化し、がん細胞を排除するとともに、免疫記憶を通じた長期的な治療成績の改善を期待
- IO研究の成果を新規のIOペイロード研究に発展
- **DS3610 Ph1試験実施中**



腫瘍選択性を高める 抗体改変型ADC

- 腫瘍選択性を高める新規技術により、薬効と安全性のプロファイルを飛躍的に向上
- 多様なADC技術との組み合わせによる新薬の創出
- **2027年度 Ph1試験開始予定**



マルチモダリティ研究から生まれたBGT候補



抗体改変技術の発展 マルチスペシフィック抗体

- T細胞エンゲージャーに代表される抗体改変技術を駆使して、新規標的およびバリデートされた標的を組み合わせ、新たな治療薬を創出
- IOやADC技術などの他要素の組み合わせにより、新たな技術・バイオロジーを探索
- **DS2243 Ph1試験実施中**



高付加価値の化学モダリティ TPD molecule

- 標的タンパク質を分解する新たなメカニズムで従来の阻害剤では狙えなかった標的（アンドラッグブル）に対する創薬を実現できる
- 熟練の創薬化学とAI創薬との連動により候補品獲得までのスピードと精度を向上させる
- **DS9051 Ph1試験実施中**



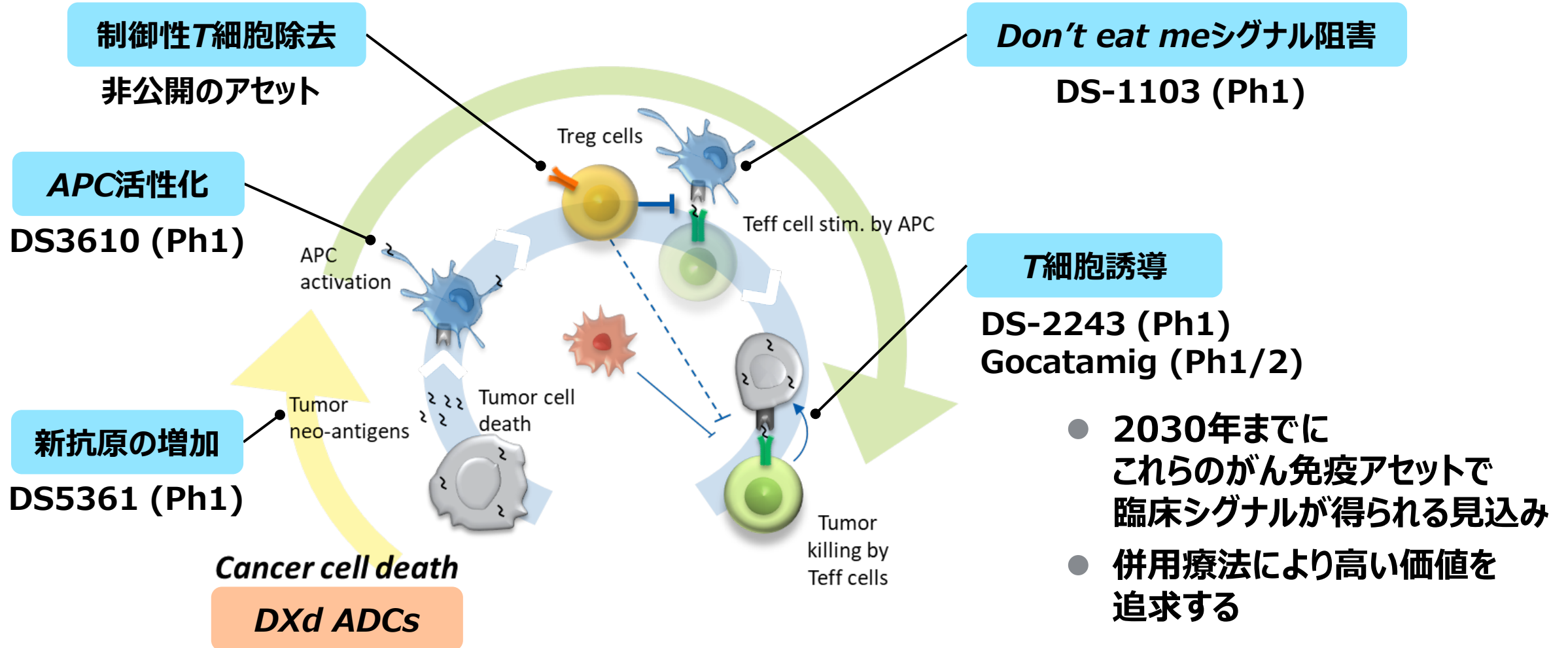
長年の核酸医薬研究の集大成 siRNA

- ダイクロナ®研究に代表される長年の核酸医薬研究基盤をsiRNA研究に集中
- 新規化学修飾技術とLNPやADCで培ったデリバリー技術を融合させ、複数の臓器を狙った核酸医薬研究を実現
- **2026年度 Ph1試験開始予定**



がん免疫におけるブレークスルーアセット候補

- ◆ 当社のIOアセットはがん免疫の主要なメカニズムを幅広くカバーしている



DXd ADC の次のBGTがさらなる成長の柱に

◆ DXd ADCに続くBGTを通じたビジネスポテンシャルのさらなる拡大

**The 1st BGT
DXd ADC**



Next BGT

ブレイクスルーアセット

>200億ドル 7つのアセットによるビジネスポテンシャル

>20 今後5年以内の承認申請に繋がり得る
データリードアウト数

>5 承認審査中の適応症



**細胞傷害性
ADC**

IO ADC

**抗体改変型
ADC**

**マルチ
スペシフィック
抗体**

TPD技術

siRNA

**IO／免疫療法
ブレイクスルーアセット**

創薬研究ケイパビリティの拡大：

研究機能拡張、創薬研究DX、オープンイノベーションの融合によるBGT創生

2020年度

2025年度

2030年度



品川研究機能の拡張

- 研究ファシリティの飛躍的拡張
- 薬理・バイオモダリティ・リサーチDXの人材強化



さらなる研究インフラ整備

新研究棟 完成（スマートラボ）

キャリア採用の継続的实施

キャリア採用の強化・継続的实施



リサーチDX

- AIによる分子デザイン
- 研究の超高速化・高精度化



スマートリサーチラボ San Diego の開設

データ駆動型創薬プロジェクト

AI創薬をマルチモダリティ研究に拡大・戦略化

AWS基盤、データ利活用システムの構築



オープンイノベーション

- スポンサーードリサーチの強化
- 先端技術/モダリティ/新規バイオロジーの導入



さらなるオープンイノベーション施策強化

リサーチインスティテュート San Diego の運用

リサーチインスティテュート Boston / Munich の運用

TaNeDS®*

先進的
研究プラット
フォーム

X

次世代技術・
標的獲得
エコシステム
の構築

導出品の進展が実証する当社のサイエンス&テクノロジー

- ◆ 当社の研究所で生み出された革新的な医薬品が、ライセンスアウトを経て、現在患者さんに届きつつある
- ◆ 契約に基づき、マイルストーン金およびランニングロイヤリティの受領が見込まれる

導出品の例



DS-6051 (taletrectinib),
ROS1阻害剤

ROS1陽性NSCLC

上市済み



DS-1001
(safusidenib), IDH1変
異阻害剤

IDH1変異グリオーマ

Ph3



PLX9486 (bezuclastinib),
cKIT ex17/18阻害剤

非進行全身性肥満細胞症

承認審査中



PLX2853 (zavabresib),
BET阻害剤

骨髄線維症

Ph2



PLX8394 (plixorafenib),
BRAF阻害剤

中枢神経系腫瘍、BRAF融合遺
伝子およびV600E変異を有する
固形腫瘍

Ph2

Operational Excellenceによる利益創出力の強化

- ◆ コスト構造を見直し、利益創出力の強化
- ◆ Business Transformation組織を新設し、全社にわたるOperational Excellenceを実現

1

AI活用等による生産性の飛躍的向上:

- DXによる業務効率化と戦略的人材配置を一体で進め、利益創出力の強化

2

調達・外注構造の抜本的最適化:

- グローバル共通のERPプラットフォーム導入を通じた調達プロセスの最適化によるコスト削減

CEO直轄のBusiness Transformation組織により、全社横断的に実行

計2,000億円以上のコスト最適化
(2026-2030年度: 5年累計)

成長投資

収益性の向上

Operational Excellenceによる利益創出力の強化

- ◆ 商業化活動をグローバルで一元的に担う新たな組織と Chief Commercialization Officerのポジションを2027年度に設置
- ◆ スピード感と一貫性のある、グローバルな活動を展開

戦略に沿った優先順位に基づく、
リソース配分および事業投資判断の最適化

持続的な成長基盤の構築に向けた、
プロセスおよびシステムの標準化

地域を超えて活躍できる人材の育成と、
次世代グローバルリーダーの継続的な輩出

研究開発、テクノロジーをはじめとする
各ユニット・機能との連携の深化

新薬事業全領域における各機能を取りまとめ
すべての製品の価値を最大化し、世界中の患者さんに届ける

Be a trusted partner for sustainable societyへの取り組み

Patient Centricity の醸成

- 医薬品への患者さんのアクセス向上
- 患者さんの声や状況を知る機会を社員へ提供

高い倫理観に基づく 医療コミュニティへの貢献

- 継続的なデータ、エビデンス創出による付加価値の提供
- 医療課題の解決のためのパートナーとしての貢献

ワールドクラス人材の 獲得・育成

- 事業戦略に合致したタレントマネジメント実施
- 次世代の経営幹部育成プログラムの実施

企業文化・労働環境の 更なる向上

- グローバルに標準化された新人事制度の高度運用
- 社員の組織への一体感醸成を強化

高いコンプライアンス基準の維持

- コンプライアンスのトレーニング・モニタリング実施
- 人権Due Diligence体制構築
- ビジネスパートナーとのガバナンス強化

バリューチェーン全体での 環境負荷の軽減

- ネットゼロ移行計画の推進
- 地域社会に配慮した責任ある化学物質管理



**患者さんやご家族を含む
多様なステークホルダーへ貢献し、
持続的な社会の実現へ到達**



キャッシュ・アロケーション方針（2026-2030年度）： 成長投資と株主還元へのバランスを重視

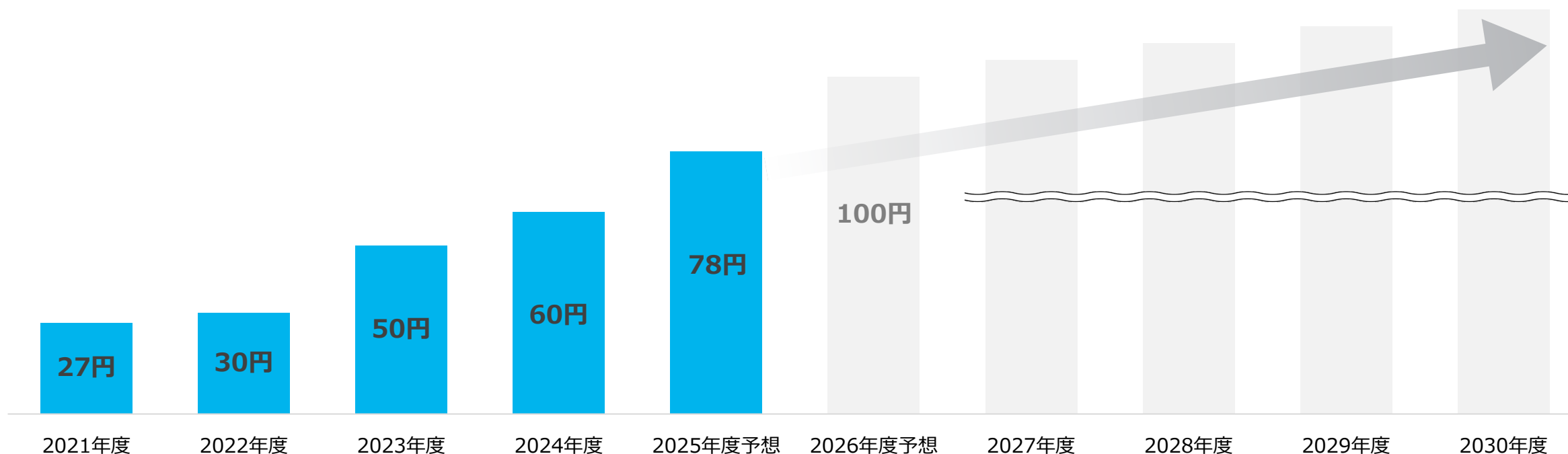


*株主資本から「その他の資本の構成要素（主に株価・為替により変動する項目）」を除いた「調整後株主資本」をもとに算出したDOE

株主還元方針

- ◆ **安定的な配当**：累進配当及び調整後DOE* 10.0%以上（毎年度）
- ◆ **自己株式取得**：成長投資および累進配当の株主還元方針を優先し、状況に応じ機動的な取得を検討

年間配当のイメージ



*株主資本から「その他の資本の構成要素（主に株価・為替により変動する項目）」を除いた「調整後株主資本」をもとに算出したDOE

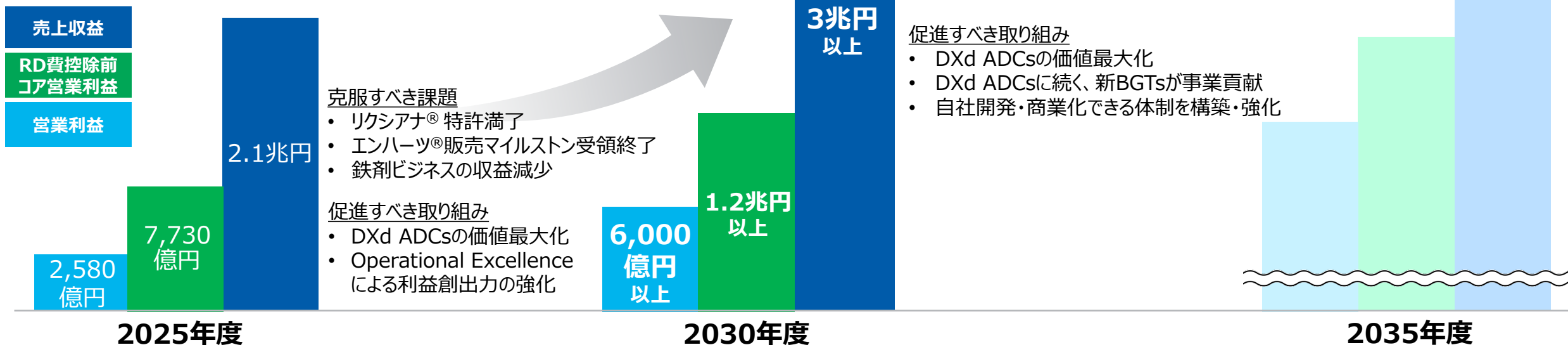
2030年度計数目標と2035年度に向けて

7月31日更新

- ◆ 中長期的な成長の源泉として、研究開発投資を段階的に増加させながらも、2026-2029年度で利益成長の基盤を確かなものとし、2030年度に一気に利益成長を加速
- ◆ 2030年代前半で営業利益1兆円規模を目指せる位置に立つ

2030年度 計数目標

- 売上収益 3兆円以上
- 営業利益 6,000億円以上
- EPS 260円以上
- 調整後DOE*
各年度 10.0%以上、累進配当



* 調整後DOE：株主資本から「その他の資本の構成要素（主に株価・為替により変動する項目）」を除いた「調整後株主資本」をもとに算出したDOE

第6期中期経営計画ハイライト

- ◆ DXd ADCsの売上拡大とOperational Excellenceにより、2030年に向けた利益成長を実現
- ◆ DXd ADCsに続く、新BGTsを特定し、持続的な成長の実現へ
- ◆ 2030年代前半で営業利益1兆円規模を目指せる位置へ

第6期中計 計数目標

- 売上収益 3兆円以上
- 営業利益 6,000億円以上
- EPS 260円以上
- 調整後DOE 各年度10.0%以上、累進配当を実施

第6期中計 取り組み

- DXd ADCsの製品価値最大化により、2035年にはグローバルトップ5オンコロジー企業へ
- DXd ADCsに続く、新BGTsを特定し、開発加速化
- 全社にわたるOperational Excellenceを実現し、利益創出力の強化
- 多様なステークホルダーへ貢献し、信頼されるパートナーに



**第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献します**



奥澤 宏幸
社長 兼 CEO



ジョン ツアイ
グローバル研究開発ヘッド



児玉 智裕
上席執行役員 CFO



阿部 有生
上席執行役員
研究開発本部長



ケン・ケラー
取締役 グローバルオンコロジー
ビジネスヘッド



本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社

IR・SR部

TEL: 03-6225-1125

(株式市場関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR_jp@daiichisankyo.com

広報部

TEL: 03-6225-1126

(報道関係者の皆様)

Email: DS-PR_jp@daiichisankyo.com